堀川玩具　デラックス火星大王 Super Astronaut

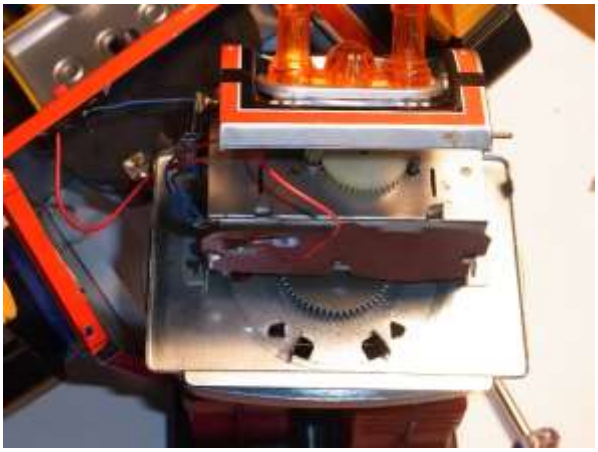
ブリキ ロボットの治療記録

◎保護者；白馬村　○○　様 0261-**-****

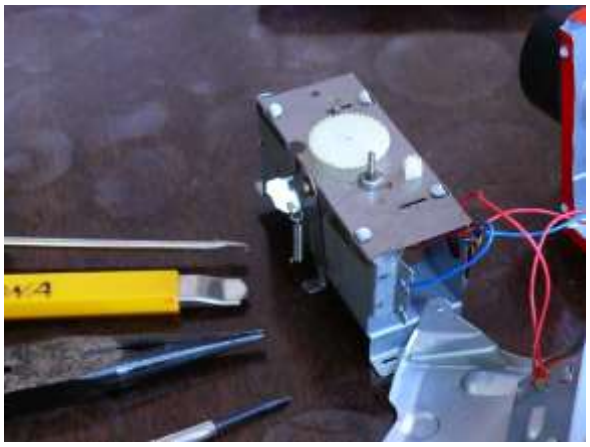
◎入院：2018 年 3 月 19 日　　退院４月２日
　町屋の倉又茶補

◎症状：電池を入れても動かない。
　　胴体が回転するはずだが回転しない。

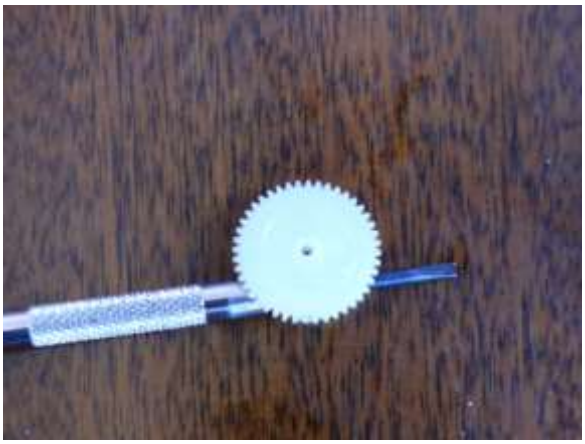
◎診察&治療
　インターネットで調べると、１９７０年頃の日本製ブリキおもちゃは、オークション等で高値で取引されており、この「デラックス火星大王」は、１万５千円から２万円くらいの値段が付いています。プレミアものです。
ビス６本を外した後は、ブリキの爪を起こして分解していくことになり、また配線コードも細く、慎重に分解、治療を行いました。

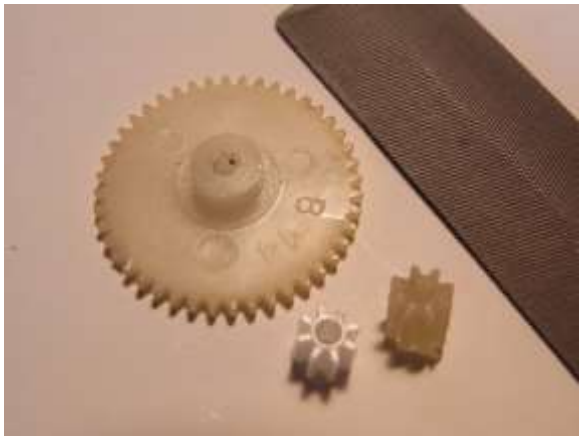


ビスを外し爪を起こし、モーターやギアのある駆動部分を見ました。電池を入れてスイッチを入れても、全く動きません。
テスターで調べると電流は流れているので配線の断線はないようです。
モーターに付いている８山のピニオンギヤと大きい歯車がびくともせず、固着していることが分かりました。
おもちゃクリニックゆりかごの院長 Dr 渡辺 M に見ていただくと、モーター軸に大量の接着剤と見られるものがこびりついており、これが原因でモーターの軸が回らず動作を妨げていることがわかりました。



モーターの軸に付いているピニオンギヤを外して、固着している接着剤をカッターや小型ドライバーなどではぎ落としました。





大きい歯車は接着剤が付いて歯が埋まっています。これを目立てやすりで削って成型し直します。
ピニオンギヤはゆがみがありヒビが入っているので新品に交換。

電池を入れモーターが回ったことを確かめ、外したバネやシャフトなどを元通りに取り付けました。
金属の爪を戻しながら組み立て上がり。

スイッチを入れると、次の動作をしました。
(1)カタカタと音を立てながら胸のゲートが開く。
(2)機関銃が光りながら、胴体が３回転する
(3)回転が止まるとまっすぐ向いて７歩歩く。
(4) (1)にもどる。

☆治療の難しい患者さんで、経験の少ない私には大変勉強になりました。何とか動くようになってホッとしています。現在流通しているおもちゃはほとんど中国などの外国製ですがこれは「MADE IN JAPAN」の素晴らしいものだと思いました。【おもちゃクリニックゆりかご　TOYZAWA　井澤和秀】